

## 経済レポート

# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2016年9月)

～ 現状判断DIは2ヶ月連続で低下、14ヶ月連続の50割れ ～

調査部 鈴木明彦 塚田裕昭 杉本宗之

10月11日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の9月の現状判断DI(3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断:各分野計)**は、前月差0.6ポイント低下の43.3と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同0.4ポイント低下の41.6と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同1.0ポイント低下の46.7と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った(注1)。

### 現状判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
16年 7月	44.2 (+3.9)	45.1 (+3.9)	44.0 (+4.7)	44.5 (+4.3)	44.7 (+2.4)	46.4 (+3.2)
8月	43.9 (-0.3)	45.6 (+0.5)	42.0 (-2.0)	44.1 (-0.4)	47.7 (+3.0)	48.7 (+2.3)
9月	43.3 (-0.6)	44.8 (-0.8)	41.6 (-0.4)	42.6 (-1.5)	46.7 (-1.0)	49.4 (+0.7)

**9月の先行き判断DI**は、前月差0.4ポイント上昇の47.9と3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.4ポイント低下の47.0と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.0ポイント上昇の49.7と3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。

### 先行き判断DI(方向性)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
16年 7月	47.1 (+6.6)	47.1 (+5.6)	47.7 (+5.3)	46.6 (+5.1)	45.7 (+8.8)	48.3 (+6.7)
8月	47.5 (+0.4)	47.4 (+0.3)	47.4 (-0.3)	46.3 (-0.3)	47.7 (+2.0)	49.8 (+1.5)
9月	47.9 (+0.4)	48.5 (+1.1)	47.0 (-0.4)	47.5 (+1.2)	49.7 (+2.0)	50.6 (+0.8)

**現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)**は、9月は前月差0.8ポイント低下の40.2と2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を14ヶ月連続で下回った。家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.3ポイント低下の36.6と2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を30ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.0ポイント上昇の47.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を6ヶ月連続で下回った。

### 現状判断DI(水準)

	各分野計		家計動向関連		企業動向・雇用関連	
	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)	東海 (前月差)	全国 (前月差)
16年 7月	43.4 (+3.3)	43.4 (+3.1)	41.8 (+3.8)	42.3 (+4.1)	46.7 (+2.5)	45.8 (+1.0)
8月	41.0 (-2.4)	42.5 (-0.9)	38.9 (-2.9)	40.3 (-2.0)	45.4 (-1.3)	47.2 (+1.4)
9月	40.2 (-0.8)	42.0 (-0.5)	36.6 (-2.3)	38.6 (-1.7)	47.4 (+2.0)	49.1 (+1.9)

内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「景気は、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、引き続き海外経済や金融資本市場の動向等への懸念がある一方、旅行・観光分野の回復、受注や求人増加の継続等への期待がみられる」とまとめ、現状判断を据え置いている。

(8月のまとめ)「景気は、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、引き続き海外経済や金融資本市場の動向等への懸念がある一方、公共工事の増加や求人増加の継続等への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「景気は弱い動きが続いている。家計動向関連では天候不順が、企業動向・雇用関連では円高がマイナス材料となっている。先行きについては、持ち直しが期待されているが、これらのマイナス材料が続くことが懸念されている」とまとめられる。

(8月のまとめ)「景気は弱い動きが続いているが、企業動向・雇用関連では、英国のEU離脱問題に対する懸念が落ち着いて円高が一服する中、やや改善してきている。先行きについては、景気を良くする材料が見つげにくい中、円高による企業活動の停滞に対する懸念が続いている」

景気の現状判断DIは2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。家計動向関連の現状判断も0.4ポイント低下の41.6と2ヶ月連続で低下、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回り、弱い動きが続いている。家計動向関連では、景気を押し上げる材料を見つけにくい中、天候不順がさまざまなところでマイナス材料となっている。また、企業動向・雇用関連の現状判断は3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った。生産に持ち直しの動きがみられるものの、円高が続いていることがマインドを厳しくしている。

景気の先行き判断DIは3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。家計動向関連の先行き判断は2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。一方、企業動向・雇用関連はDIが3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。家計動向関連ではボーナスなど年末年始の季節要因に対する期待があるが、天候不順が続くことが懸念されている。企業動向・雇用関連では、電子部品・デバイスや自動車の増産一服が見込まれる中、円高が懸念材料となっており、季節的な需要の盛り上がりに対する期待も弱い。

(注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDIは、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。

東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡

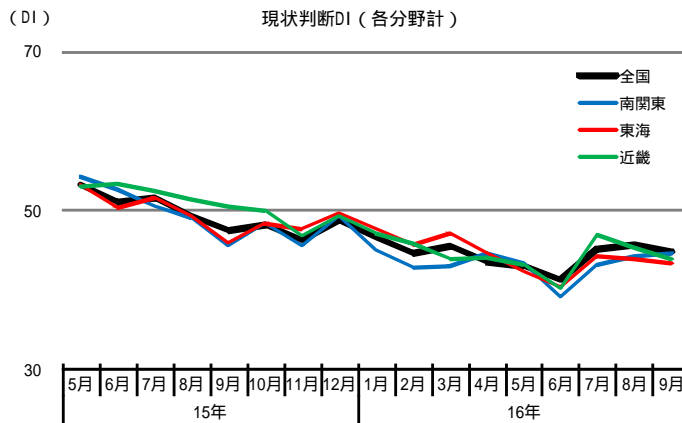
南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川

近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

## 1. DIの動向

### (1) 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

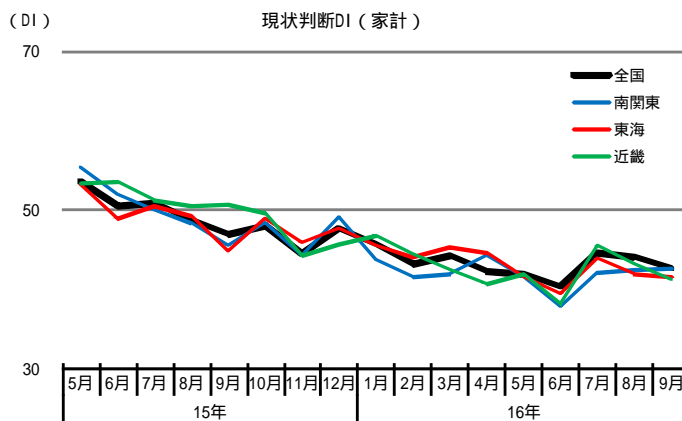
3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI(各分野計)は、前月差0.6ポイント低下の43.3と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。南関東、全国よりやや低く、近畿とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	53.3	54.2	53.2	53.1	
	6月	51.0	52.6	50.3	53.3	
	7月	51.6	50.5	51.6	52.4	
	8月	49.3	49.1	49.2	51.4	
	9月	47.5	45.5	45.8	50.5	
	10月	48.2	48.4	48.3	49.9	
	11月	46.1	45.5	47.7	46.8	
	12月	48.7	49.3	49.5	49.2	
	16年	1月	46.6	44.9	47.6	47.1
		2月	44.6	42.8	45.6	45.9
		3月	45.4	42.9	47.1	44.0
		4月	43.5	44.6	44.7	44.1
5月		43.0	43.4	42.2	43.1	
6月		41.2	39.1	40.3	40.1	
7月		45.1	43.2	44.2	46.9	
8月		45.6	44.3	43.9	45.4	
9月		44.8	44.7	43.3	43.9	

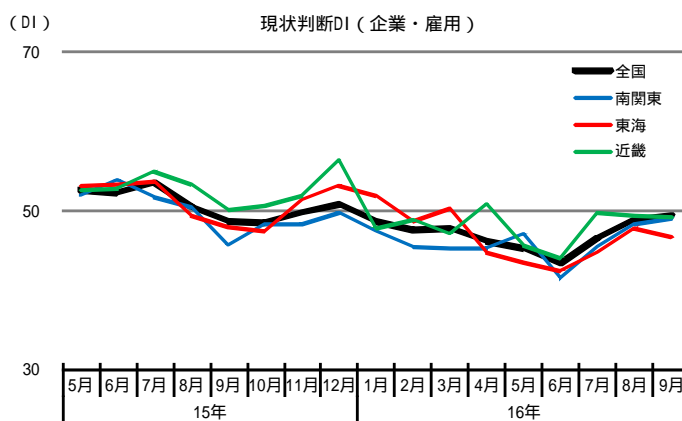
家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同0.4ポイント低下の41.6と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。南関東、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	53.6	55.4	53.2	53.4	
	6月	50.4	51.9	48.8	53.6	
	7月	50.8	49.9	50.5	51.2	
	8月	48.8	48.4	49.2	50.4	
	9月	47.0	45.5	44.7	50.8	
	10月	48.1	48.4	48.8	49.5	
	11月	44.4	44.1	45.8	44.2	
	12月	47.7	49.1	47.7	45.7	
	16年	1月	45.6	43.7	45.4	46.8
		2月	43.2	41.5	44.0	44.4
		3月	44.3	41.8	45.4	42.4
		4月	42.2	44.2	44.6	40.7
5月		41.9	41.6	41.6	41.9	
6月		40.2	37.9	39.3	38.1	
7月		44.5	42.1	44.0	45.4	
8月		44.1	42.4	42.0	43.2	
9月		42.6	42.6	41.6	41.1	

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同1.0ポイント低下の46.7と3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った。南関東、近畿、全国より低い水準となっている。

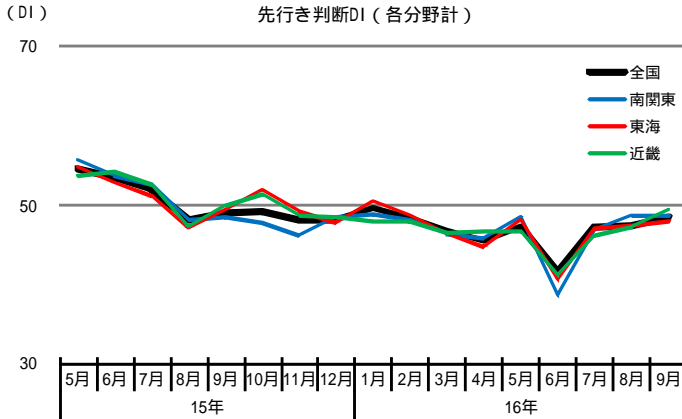


企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	52.7	51.9	53.2	52.6	
	6月	52.3	53.9	53.4	52.8	
	7月	53.4	51.7	53.6	54.9	
	8月	50.4	50.5	49.3	53.3	
	9月	48.6	45.6	48.0	50.0	
	10月	48.5	48.3	47.3	50.6	
	11月	49.7	48.3	51.3	51.8	
	12月	50.8	49.7	53.1	56.4	
	16年	1月	48.6	47.5	51.9	47.7
		2月	47.5	45.3	48.7	48.8
		3月	47.8	45.3	50.3	47.0
		4月	46.1	45.3	44.8	50.9
5月		45.3	47.1	43.4	45.6	
6月		43.2	41.5	42.3	44.0	
7月		46.4	45.3	44.7	49.7	
8月		48.7	48.3	47.7	49.4	
9月		49.4	49.0	46.7	49.2	

## (2) 景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

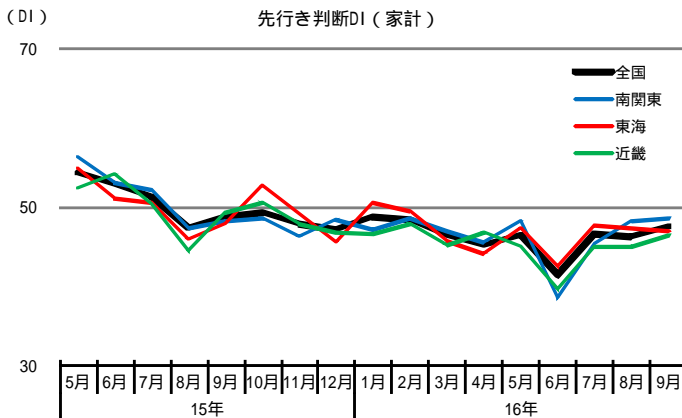
2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI(各分野計)は、前月差0.4ポイント上昇の47.9と3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。近畿よりやや低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	54.5	55.6	54.7	53.7	
	6月	53.5	53.8	52.7	54.2	
	7月	51.9	52.6	51.1	52.6	
	8月	48.2	48.0	47.1	47.3	
	9月	49.1	48.4	49.4	49.9	
	10月	49.1	47.7	51.9	51.4	
	11月	48.2	46.1	49.2	48.7	
	12月	48.2	48.5	47.7	48.5	
	16年	1月	49.5	48.8	50.4	47.9
		2月	48.2	48.0	48.6	48.0
		3月	46.7	46.3	46.3	46.5
		4月	45.5	45.8	44.8	46.7
5月		47.3	48.5	48.2	46.6	
6月		41.5	38.7	40.5	41.1	
7月		47.1	46.8	47.1	46.1	
8月		47.4	48.6	47.5	47.1	
9月		48.5	48.7	47.9	49.3	

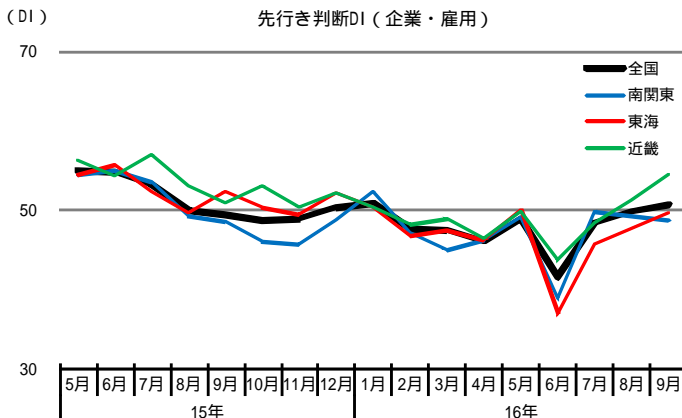
家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同0.4ポイント低下の47.0と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回った。南関東よりやや低いが、近畿、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	54.3	56.3	54.8	52.3	
	6月	52.9	53.2	51.2	54.1	
	7月	51.3	52.2	50.5	50.4	
	8月	47.4	47.4	45.8	44.5	
	9月	48.9	48.3	47.9	49.4	
	10月	49.3	48.5	52.7	50.6	
	11月	47.9	46.3	49.1	47.9	
	12月	47.2	48.3	45.5	46.7	
	16年	1月	48.8	47.2	50.5	46.6
		2月	48.5	48.5	49.5	47.9
		3月	46.4	46.9	45.7	45.3
		4月	45.3	45.6	44.1	46.8
5月		46.5	48.2	47.3	45.1	
6月		41.5	38.6	42.4	39.7	
7月		46.6	45.4	47.7	45.0	
8月		46.3	48.2	47.4	45.0	
9月		47.5	48.6	47.0	46.5	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.0ポイント上昇の49.7と3ヶ月連続で上昇したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回った。近畿より低いが、南関東、全国とほぼ同水準となっている。

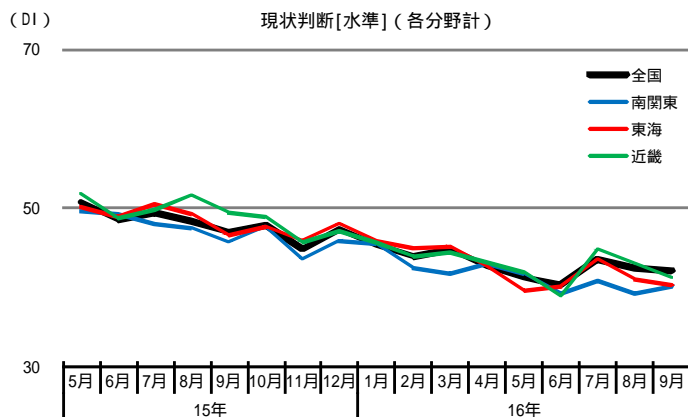


企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	54.9	54.4	54.5	56.3	
	6月	54.7	54.9	55.7	54.3	
	7月	53.1	53.5	52.3	57.0	
	8月	49.9	49.3	49.7	53.0	
	9月	49.5	48.5	52.4	50.9	
	10月	48.7	46.0	50.3	52.9	
	11月	48.9	45.8	49.4	50.3	
	12月	50.3	48.7	52.1	52.1	
	16年	1月	50.8	52.3	50.3	50.3
		2月	47.7	47.1	46.8	48.3
		3月	47.4	45.0	47.4	48.8
		4月	46.0	46.3	46.2	46.5
5月		49.0	49.0	50.0	49.7	
6月		41.6	38.8	36.9	43.8	
7月		48.3	49.8	45.7	48.3	
8月		49.8	49.3	47.7	51.1	
9月		50.6	48.8	49.7	54.5	

### (3) 景気の現状判断(水準)

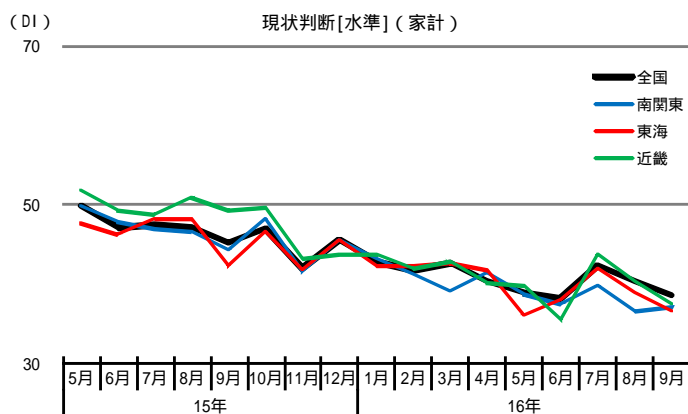
現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、前月差0.8ポイント低下の40.2と2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を14ヶ月連続下回った。南関東と同水準、近畿とほぼ同水準だが、全国よりやや低い水準となっている。



各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	50.6	49.6	50.1	51.8	
	6月	48.6	49.2	48.9	48.8	
	7月	49.5	47.9	50.6	49.7	
	8月	48.4	47.5	49.2	51.5	
	9月	47.0	45.6	46.6	49.5	
	10月	47.7	47.7	47.6	48.9	
	11月	44.9	43.6	45.8	45.7	
	12月	47.3	45.8	48.0	47.1	
	16年	1月	45.3	45.5	45.9	45.7
		2月	43.9	42.5	44.9	43.8
		3月	44.7	41.7	45.1	44.5
		4月	42.6	43.1	42.7	43.2
5月		41.1	41.7	39.6	41.9	
6月		40.3	39.1	40.1	38.9	
7月		43.4	40.8	43.4	44.8	
8月		42.5	39.2	41.0	42.9	
9月		42.0	40.2	40.2	41.2	

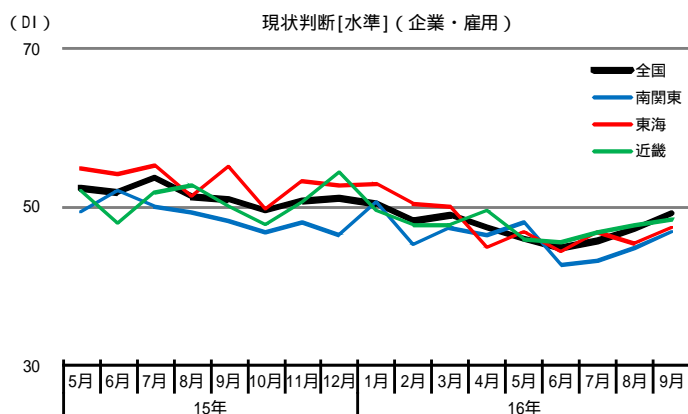
家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.3ポイント低下の36.6と2ヶ月連続で低下し、中立を示す50を30ヶ月連続で下回った。全国よりやや低いが、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	49.8	49.8	47.7	51.7	
	6月	47.0	47.7	46.3	49.3	
	7月	47.5	46.9	48.1	48.7	
	8月	47.0	46.6	48.2	50.9	
	9月	45.1	44.3	42.3	49.2	
	10月	46.9	48.2	46.6	49.5	
	11月	41.9	41.5	41.8	43.2	
	12月	45.4	45.5	45.5	43.6	
	16年	1月	42.8	43.1	42.3	43.8
		2月	41.7	41.1	42.2	41.9
		3月	42.6	39.1	42.5	42.8
		4月	40.3	41.4	41.7	40.1
5月		38.8	38.6	36.0	39.8	
6月		38.2	37.4	38.0	35.4	
7月		42.3	39.7	41.8	43.8	
8月		40.3	36.6	38.9	40.4	
9月		38.6	37.0	36.6	37.3	

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同2.0ポイント上昇の47.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、中立を示す50を6ヶ月連続で下回った。全国よりやや低いが、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



企業動向関連+雇用関連

		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
15年	5月	52.3	49.3	54.8	52.0	
	6月	51.7	52.0	54.1	47.8	
	7月	53.5	50.0	55.3	51.7	
	8月	51.2	49.3	51.3	52.7	
	9月	50.9	48.3	55.1	50.0	
	10月	49.5	46.8	49.7	47.6	
	11月	50.8	48.0	53.2	50.6	
	12月	51.1	46.4	52.8	54.3	
	16年	1月	50.4	50.5	52.9	49.4
		2月	48.3	45.1	50.3	47.7
		3月	49.0	47.3	50.0	47.6
		4月	47.3	46.5	44.8	49.4
5月		45.9	48.0	46.7	45.9	
6月		44.8	42.7	44.2	45.5	
7月		45.8	43.1	46.7	46.9	
8月		47.2	44.9	45.4	47.7	
9月		49.1	46.8	47.4	48.3	

## 2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

### (1) 景気の現状判断

9月の東海地区の景気の現状判断DI(43.3)は2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。部門別にみると、家計動向関連の現状判断DI(41.6)は2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回っている。また、企業動向・雇用関連の現状判断DI(46.7)は3ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す50を6ヶ月連続で下回った。

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。9月調査では、景気の現状について、「良くなっている」、「やや良くなっている」、「悪くなっている」という回答数は前月と同数となっているが、「変わらない」という回答が減少し、「やや悪くなっている」が増加した。景気の現状を悪化方向で見ているウォッチャーがやや増加して、景気の現状判断DIは小幅低下した。

現状判断 (回答者数)	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	合計
9月調査	0	33	127	50	10	220
10月調査	4	39	125	46	8	222
11月調査	1	41	123	47	8	220
12月調査	4	44	112	46	5	211
1月調査	1	40	135	44	10	230
2月調査	1	42	120	53	16	232
3月調査	1	39	129	52	8	229
4月調査	1	32	119	64	9	225
5月調査	1	18	127	63	13	222
6月調査	3	21	107	82	17	230
7月調査	3	24	129	63	10	229
8月調査	1	24	134	58	12	229
9月調査	1	24	126	62	12	225

家計動向関連でも現状判断DIが低下している。回答ごとの内訳を見ると、改善方向の回答は、「良くなっている」が(8月:1 9月:1)と変わらず、「やや良くなっている」が(17 13)と減少した。一方、悪化方向の回答は、「悪くなっている」が(10 8)と減少したが、「やや悪くなっている」が(48 49)と増加した。結果、「変わらない」(77 78)が多数を占める中、改善方向の回答が減少して現状判断DIは小幅低下した。

家計動向関連のコメントを見ると、9月は、悪天候、台風の悪影響をあげる声が多数みられる。来客数の減少、入荷の減少などが販売に影響している。

- ・悪天候で入荷が少なく、仕入価格は高騰している。特に9月は雨が多く、来客数も例年に比べて少なく、お彼岸の売行きが良くない。(一般小売店[生花]経営者)
- ・月初は天候にも恵まれ順調に推移していたが、中旬以降は台風の影響等で来客数が減少し、天候に左右され

ている。景況感としては、あまり変化は感じられない。(百貨店経理担当)

- ・長雨とその後の蒸し暑さの影響で来客数は少ない。一見客は、目的を持ち買う物を決めてあちらこちらを探し回っている様子で、衝動買いは皆無である。(衣料品専門店経営者)
- ・雨天が多い等、天候の影響もあるが、衣料品を中心に売上は前年同期を下回っている。気温も下がらず、秋物商材が動かない。(百貨店企画担当)
- ・曇りや雨の日が多く、残暑がそれほど厳しくなく、飲料の売上が低迷している。(コンビニ店長)

季節要因による盛り上がりは出てきているようだが、例年の勢いを超えるものではない。また、連休の日並びが昨年に比べて悪いことをマイナス材料として挙げるウォッチャーもいる。9月は引越し需要による改善をあげる声があるが、これも季節要因と考えるべきであろう。

- ・気温が下がり、高単価の商品が少しずつ動き始めている。(衣料品専門店店長)
- ・引越し需要がなぜか多い。高単価商品もよく売れている。(家電量販店店員)
- ・引越しや改築に伴う固定電話や光回線の新規申込が増加している。(通信会社サービス担当)
- ・宿泊者数は15%以上落ち込んでいる。インバウンドも夏前の勢いはなく、個人や小グループの来客数も減少し続けている。食堂部門等も、前年同月に5連休があった影響で、飛び石連休の今年は前年割れとなる。(観光型ホテル販売担当)

天候要因による悪影響として生鮮野菜の値上がりを指摘する声が多く、影響の広がりを懸念する声もある。

- ・野菜等の高騰により、販売点数が伸びず、1品単価が上がったことで、何とか客単価を維持している。(スーパー店長)
- ・青果部門の売上は他部門に比べて良くみえるが、野菜の価格が上がったため、決して来客数が伸びているわけではない。(スーパー企画・経営担当)
- ・天候不順による青果価格の高騰が、販売量に大きく影響している。(スーパー経営者)
- ・長雨の影響や北海道の台風による被害で、人参、じゃがいもやたまねぎ等の仕入価格が上昇し、値上げせざるを得ない。ネギや葉物野菜にも影響が出始めており、価格高騰に対する客のため息を何度となく耳にしている。(スーパー店員)
- ・台風や天候不順の影響で来客数が減少している。不調の原因は天候ばかりではなく、台風等の災害や農作物の不作が家計に影響し、レジャーを控えるという悪循環を招いている。(旅行代理店従業員)

天候不順のために季節的な盛り上がりも出てこないという図式だが、天候要因だけでは説明できない弱さを指摘する声も少なくない。

- ・衣料品を中心とする売場では、購入客の減少が続いている。物産展やイベントで集客しても、全体の売上回復に結び付かない。雨天が多いことや残暑の影響もあるが、客の購買意欲の低さが顕著となっている。(百貨店販売担当)
- ・台風の影響もあるが、9月に入って急速に買物需要や購買意欲が減少している。セールや催事は好調で、消費者の選別意識が一層強まっている。(百貨店経営企画担当)
- ・気温の問題もあるが、秋物商材の動き出しが例年よりも鈍い。また、購買単価と購入決定率も低下傾向にある。(百貨店計画担当)

- ・今月は台風の直撃もあり天候が悪い。週末等の稼ぎ時の客足が鈍り、売上が伸びなかった。それ以外の時でも、前年に比べると来客数は減っており、状況は良くない。(コンビニエリア担当)

節約志向、客単価の低下といったデフレ的基調を指摘するコメントも引き続きみられる。

- ・客単価は下落しており、1品単価も落ちている。客は年初と比べても、価格に敏感になってきている。(スーパーブロック長)
- ・廉価な商品しか売れず、高級品は見向きもされない。付加価値が高い商品でも、とにかく安さを求める客が多い。(商店街代表者)
- ・長期デフレが続き、給与も上昇せず、今の金銭感覚が日常化している。将来への不安要素も、消費マインドが改善する足を引っ張っている。(一般レストラン経営者)

インバウンド消費については、不調を指摘する声も引き続きみられる。

- ・宿泊は、新規ホテルの開業とインバウンドの減少により減収である。レストランも低迷している。(都市型ホテル支配人)
- ・円高でインバウンドが減っている。日本人客も、台風や雨天等の影響で外出を控える状況である。(テーマパーク職員)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。8月調査に比べ回答数が3件増加した。「変わらない」が増える中、「やや悪くなっている」が減少し、「悪くなっている」が3ヶ月ぶりに増加した。9月は決算月でもあり、また、新型車の投入もあったようだが、その影響は様々であったようだ。

- ・消費の盛り上がりというよりは、新車効果で来客数が増えている。(乗用車販売店総務担当)
- ・決算月の9月を迎え、販売台数が増えるのが普通であるが、例年と比べてもあまり変わらない。(乗用車販売店営業担当)
- ・当社の扱う車両では高級車種の販売比率が低下している。客の財布のひもはますます固くなっており、商談でも、購入予算を超える提案は聞いてもらえない。(乗用車販売店従業員)
- ・新型車種の発売で、他社と共に盛り上がるかと思ったが、思ったほどの受注には至っていない。コンパクトカーだけでなく中量販車種と呼ぶ大型車種も売れるようになり、市場の動きにはやや変化が出ているが、販売総数でみると前年割れなので、良くなっているとはいえない。(乗用車販売店従業員)
- ・今月は新型車種が出たが、客の動きは悪い。全体的に来客数が少ない。(乗用車販売店経営者)



現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	回答合計
9月調査	0	0	7	2	1	10
10月調査	0	1	8	1	0	10
11月調査	0	1	6	2	1	10
12月調査	0	2	5	1	1	9
1月調査	0	2	5	1	1	9
2月調査	0	5	5	1	0	11
3月調査	1	2	5	2	0	10
4月調査	0	1	5	2	0	8
5月調査	0	1	5	4	0	10
6月調査	0	1	3	3	1	8
7月調査	0	2	4	3	0	9
8月調査	0	1	6	1	0	8
9月調査	0	1	8	0	2	11

企業動向関連では、スマートフォン関連の需要増加や自動車の挽回生産を背景にした電子部品・デバイスや輸送機械の持ち直しを示唆するコメントが出ている。

- ・スマートフォン関連の半導体メーカーに出荷している容器製品の販売が好調である。(化学工業営業)
- ・製品の生産量が、わずかではあるが増加している。(輸送用機械器具製造業品質管理担当)

一方で、円高基調が続いていることを懸念するコメントが引き続き散見される。

- ・アベノミクスは一定の効果はあったものの、全国的に実感できる効果は表れていない。円高傾向に戻り、不安感が漂う。大企業や投資家には明らかな恩恵があったようだが、多くの国民は、恩恵をほとんど受けていない。(化学工業総務秘書)
- ・円高の影響を社内の改善活動でカバーすることで、当初計画の利益水準を何とか保っている。(輸送用機械器具製造業経理担当)
- ・円高で輸出量は伸び悩んでいる。(輸送業エリア担当)
- ・円高傾向で、受注は若干縮小している。(電気機械器具製造業営業担当)

さらに、天候要因、採用難、海外経済の減速といったマイナス要因を指摘するウォッチャーの声もある。

- ・9月初めは天候が不順で荷動きは低調であったが、後半は活発である。業界では依然として運転手の採用難が続いており、採用できる会社とできない会社では、大きく経営状態が変わり、体力のない会社では存続が難しくなるところも出てくる。(輸送業従業員)
- ・引き合い件数はあまり多くなく、北米の自動車向け設備投資の計画も延期や中止となっている。(一般機械器具製造業営業担当)

企業動向関連でも価格の下落、価格交渉の厳しさをあげる声が複数みられる。

- ・物件の動きがあまり良くないなかで、短い納期や低価格での要請等、条件の厳しい仕事が多い。(金属製品製造業従業員)
- ・国内需要の製品については、価格交渉では引き続き厳しい状況が続いている。(電気機械器具製造業経営者)
- ・受注量や販売量が減少している。更に料金の値引き要求が増えている。(出版・印刷・同関連産業代表)
- ・販売数量が前月より減少している。製品価格も低下傾向にある。(金属製品製造業経営者)

雇用関連のコメントを見ると、求人動向は良好である一方、マッチングの問題の難しさもあるようだ。

- ・全体としての求人数はほぼ横ばいであるが、募集先をみると人手不足業界からの求人は増え、逆に製造業の求人は減っており、二極化する状況が続いている。(職業安定所所長)
- ・求人数は多いが、条件限定での求職者が多くマッチングが難しい状態が続いている。(民間職業紹介機関窓口担当)
- ・正社員採用での求人は増加しているが、条件にマッチする人材が不足している。(人材派遣会社社員)

## (2) 景気の先行き判断

9月の東海地区の景気の先行き判断DI(47.9)は3ヶ月連続で上昇した。横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回っているが、英国のEU離脱問題で大きく水準を下げる前の5月の水準に近づいてきた。家計動向関連の先行き判断DI(47.0)は2ヶ月連続で低下、横ばいを示す50を8ヶ月連続で下回り、5月の水準を2ヶ月ぶりに下回った。一方、企業動向・雇用関連の先行き判断DI(49.7)は3ヶ月連続で上昇、横ばいを示す50を4ヶ月連続で下回っているが、5月の水準に近づいている。

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。9月調査では、8月調査に比べて大きな変化はなかったが、「悪くなる」「やや悪くなる」が小幅減少する一方で、「やや良くなる」が小幅増加し、先行き判断DIは小幅改善した。

先行き判断 (回答者数)	良くなる	やや 良くなる	変わらない	やや 悪くなる	悪くなる	合計
9月調査	2	40	134	39	5	220
10月調査	5	57	114	42	2	222
11月調査	4	42	123	45	6	220
12月調査	1	40	117	45	8	211
1月調査	3	54	124	42	7	230
2月調査	4	47	120	54	7	232
3月調査	2	38	124	54	11	229
4月調査	1	28	129	57	10	225
5月調査	1	36	139	38	8	222
6月調査	2	26	103	81	18	230
7月調査	4	28	143	45	9	229
8月調査	4	32	136	51	6	229
9月調査	4	33	133	50	5	225

家計動向関連の回答でも、9月調査は8月調査に比べて大きな変化はなかった。「良くなる」(8月:3 9月:3)と「やや悪くなる」(38 38)が前月と同数となり、「悪くなる」も(4 3)ほとんど同じであった。このような中、「やや良くなる」が(24 20)減少し、先行き判断DIは小幅低下が続いた。

家計動向関連で「良くなる」「やや良くなる」の改善方向の回答をしたウォッチャーのコメントを見ると、年末年始といった季節要因による改善を見込むものが多い。見方を変えれば、季節要因以外に良くなる材料が見つけにくいとも言えそうだ。

- ・2~3か月後は、台風や秋の行事の影響もなくなり、年末シーズンで良くなる。(一般レストラン経営者)
- ・年末年始には、参拝客の増加に期待をしている。(スーパー経営者)
- ・衣料品関係では、季節的に高単価商品が動き出す。(衣料品専門店店長)
- ・年末が近づくとつれて、時期的に必要な商品に動きが出てくる。(その他専門店[雑貨]店員)

季節要因に対する期待が多い一方で、あまり期待できないという見方もある。

- ・例年なら年末に向けて動きが出る時期だが、足元の様子からはあまり期待ができない。節約志向が強く、単価は低下が続いていく。(商店街代表者)
- ・クリスマスや年末商戦が近づいてくるが、今の状況を考慮すると、悪化することはあっても回復するという兆しは全くみえない。(衣料品専門店[紳士服洋品]売場担当)

天候不順が続くことに対する不安があり、不安が続くことが縮み志向に拍車をかける懸念も指摘されている。

- ・これから、栗、りんごや松茸等、秋の味覚が商品棚に並ぶが、このところの悪天候の影響で、買いやすい価格になるかはわからない。(スーパー店員)
- ・行楽シーズンに向けて、売上増加を期待したいが、天候が回復しないと見通しが立たない。(コンビニ店長)
- ・夏物の動きが悪かったため、秋物も仕込みを少なくし、冬物にもあまり期待が持てない。(衣料品専門店販売企画担当)
- ・先行きの天候の不透明さが大きく影響している。冬が冬らしくなれば少しは良くなるが、秋から冬にかけての予報も定かではなく、あまり期待ができない。(観光名所案内係)

冬のボーナスの支給も期待される季節要因の一つだが、期待がある一方で企業収益の悪化を背景にボーナスが減るのではないかという懸念もある。

- ・年末になるとボーナス支給等もあり、年末年始には行事や予定を組む客もあるため、客足は多少良くなる。(美容室経営者)
- ・4Kテレビに買換えを検討する下見客が増えている。ドラム式洗濯機や大型冷蔵庫も、同様に下見客が多い。(家電量販店店員)
- ・円高等を背景にボーナス支給額の減少が想定される。この先の購買意欲アップとなる原動力が見つからず、節約志向は一層高まる。(百貨店経営企画担当)

節約志向、低価格志向の高まりを懸念材料ととらえる声が続いている。

- ・客の流れ、商品の販売量や客単価がずっと変わらず、上向きそうな状況ではない。(スーパー店員)
- ・購買意欲の回復がみられず、相変わらずセール品と必要品以外は購入を控える傾向が続いている。短期間の改善は見込めない。(コンビニ商品開発担当)
- ・デフレの兆候も見え隠れし、消費者には低価格志向と、価格だけでなく機能や内容にもこだわる選別消費が、より広がっていく。(百貨店経理担当)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。8月調査に比べ回答数が1件増加した中、「変わらない」が増加し、「やや良くなる」、「やや悪くなっている」がそれぞれ減少した。新型車効果や冬のボーナス商戦への期待はあるものの、現状では、良くなる要因も悪くなる要因も見当たらないという状況のようだ。

- ・特に悪くなる要因はないが、良くなる要因もない。(乗用車販売店営業担当)
- ・身の回りには景気の良くなる要素も悪くなる要素も見当たらず、落ち着いている。(乗用車販売店経営者)
- ・冬のボーナス商戦に加えて、年末に向けて各社から新型車種が投入されるため、世間に話題が広がって新車

に興味を持ってもらえればと期待している。(乗用車販売店従業員)

- ・新型車効果で販売台数の底上げは期待されるが、主力のファミリー層の動きが鈍いため、先行きは不透明である。若い既婚者層では、車の維持費を抑えようと、軽自動車へのシフトや、車検やカー用品の格安店を利用する傾向がみられる。(乗用車販売店従業員)

先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	回答合計
9月調査	0	3	9	1	0	13
10月調査	0	4	8	0	0	12
11月調査	0	2	10	0	0	12
12月調査	0	3	7	0	0	10
1月調査	0	3	8	2	0	13
2月調査	0	1	7	5	0	13
3月調査	0	0	10	1	1	12
4月調査	0	0	10	1	1	12
5月調査	0	3	8	2	0	13
6月調査	1	0	8	1	1	11
7月調査	0	4	7	1	0	12
8月調査	0	2	8	2	0	12
9月調査	0	1	11	1	0	13

企業動向関連では、景気の現状判断で持ち直しの動きがコメントされていた電子部品・デバイスや輸送機械において、先行きは横ばいを見込む声がある。

- ・半導体メーカー向けの需要は、ほぼ横ばいと見込んでいる。(化学工業営業)
- ・自動車メーカーに聞いても、下期に増産するという話は全く聞かない。2～3か月後も現状と変わらない。(輸送用機械器具製造業総務経理担当)

一方、季節要因や海外経済での持ち直しの動きなどを背景に先行きの改善を見込むコメントもある。

- ・年末を控えて、出荷量の増加が見込まれる。(行政書士)
- ・凍結や延期をされていた北米での設備投資計画が、幾つか復活する動きがある。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・客先の業界は苦しい状況であるが、優良店では、年末にかけて設備投資が期待ができる。(電気機械器具製造業経営者)
- ・客先の生産計画では、先行きも少しずつ増産の計画となっている。(輸送用機械器具製造業品質管理担当)

一方、季節要因による改善を期待するものの、それすらも見込めないのではとの声もある。

- ・先行きに上向きとなる要因がない。例年10～11月は他の月よりも10%以上の上乗せが期待できるが、今年はこの月と変わらない見込みである。(鉄鋼業経営者)
- ・季節変動による秋口からの需要増加を期待しているが、引き合いが少なく前年並みとなりそうである。引き続き

あまり良くない状況が続く。(金属製品製造業経営者)

その他、広告の動向に先行きの不安が伺えるという指摘もある。

・商店街等の話では、消費者には節約ムードが強く売上が伸びない。先行きに期待ができないので、出稿を控えたいという広告主が増えている。(出版・印刷・同関連産業代表)

雇用関連では、さらなる求人増も見込むコメントがある一方、ミスマッチによる弊害を懸念する声もある。

・大都市のターミナル地区では、新規開業に伴う求人数の増加が見込める。(人材派遣会社社員)

・9月以降、大手自動車メーカーの人材募集が加速している。(アウトソーシング企業エリア担当)

・人材採用が企業の思うようには進まないため、生産性の低下が心配される。(人材派遣会社社員)

その他、10月から一部の企業で発生する社会保険料の106万円の壁の影響を懸念するコメントもあった。

・当地ではプレミアム付商品券の受付が始まり、少しでも消費に結び付くことを期待するが、前年ほどの盛り上がりはない。10月から一部の企業では、社会保険料に関する106万円の壁が発生する。雇う側、働く側双方の思惑は読みづらいが、今以上の就業調整も考えられる。(新聞社[求人広告]営業担当)

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の3項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となるため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が対象となっている。

調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### - ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照下さい。

(お問い合わせ) 調査部 TEL: 03-6733-1070 E-mail: chosa-report@murc.jp